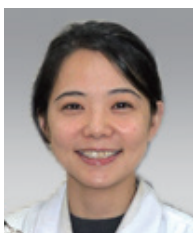


「仕事」と「私事」から見えたこと



中島裕美子

産業技術総合研究所触媒化学融合研究センター
[305-8565] つくば市東1-1-1
研究チーム長, 博士(工学).
専門は有機金属化学, 錯体化学.
yumiko-nakajima@aist.go.jp
<https://irc3.aist.go.jp/incorporate/team/>

[organosilicon-chemistry/](https://irc3.aist.go.jp/incorporate/team/)

数年前に、ある国際会議の企画として開催された、ダイバーシティに関するパネルディスカッションに参加した。さまざまな国籍の女性研究者達は、女性であることに加え、人種差別や教育格差、内紛による移民の経験など、それぞれの問題を乗り越え、いかに力強く研究者人生を切り開いて来たかを語った。今なお戦い続ける彼女らの言葉はとても重みがあり、活発な議論が繰り広げられた。ただ一人、日本人パネリストとして参加した筆者は、日本において教育やプロモーションの機会はきわめて平等であり、少なくとも女性としてディスアドバンテージは感じたことはないという個人的な感想を述べた上で、それでも理工系分野でキャリアを積む女性比率はきわめて少ない点を紹介した。その中で、笑えるエピソードとして、自分が大学に入学した当初は、まだ女性用トイレのない建物が存在したことを述べた。すると、「Oh! No!!」という言葉とともに、憐みのような雰囲気に会場が包まれた。日本がダイバーシティ後進国という印象を植え付けてはいけないと思い、「これは、差別ではありません。女子学生が居なかったために必要がなかっただけなのです」と慌てて付け加えたが、筆者のつたない英語でどれほど伝わったのだろうか。さておき、世界におけるさまざまなダイバーシティ問題を目の当たりにし、これまでの自身の恵まれた環境を客観的に見る良い機会を得ることができた。

さて、先ほどのトイレの話に戻って補足するが、当の女子学生達は、実際ほとんど気にしていなかったのである。トイレのない建物で授業があるときには、必ず近くの建物で事前に用を済ませたこと、男子学生と合同で行われる体育の授業では、いつも先生と2人組でストレッチをしたこと、などなど、エピソードは尽きない。これらのことは、はじめは、面白おかしく、飲み会のネタにはなったものの、その内話にも上がらなくなった。おそらく、大学という自由な雰囲気の中でもたらされるさまざまな刺激によって、気持ちは満たされていたため、あまりほかのことに気をとらわれることなく、生き生きと学生生活を謳歌することができたのであろう。

女性活躍推進法が成立して、すでに6年が過ぎた現

在において、大学の構内で「女子トイレはどこにあるのかな?」と探さなければいけない状況には、まったくと言っていいほど遭遇しなくなった。しかし、最近見つけたのである。きわめて偏った男女比率のなか、すべての職員が生き生きと働く職場を!! それは、わが家の子供達がお世話になる保育園である。その保育園には、46名の職員の中、ただ一人、男性保育士が働いている。言わずもがな、女性専用トイレはあっても男性専用トイレはない。しかし、そんなことは関係ない。その男性保育士は、炎天下、率先して園庭で子供達と汗を流し、また人一倍声を張り上げ、総勢200名以上に及ぶ子供達を全力でリードする。必然的に、子供達からの信頼は厚い。筆者の見解によると、この男性保育士の原動力は、保育園の洗練された職場環境によるところが大きい。ここでは、子供達の健やかな成長をサポートするという共通の目標に向けて、全職員が楽しみながら積極的に仕事をこなす雰囲気が確立されている。これにより、性別を問わず、誰もが自然と職務に集中できる環境が整えられているのだと思う。意識の高いプロ集団のなせる業である。子供達と職員の笑顔が絶えないこの空間で、私は毎日多くの元気をもらうとともに、チーム運営の何某に関して学ばせられている。

このように、筆者はこれまでに「私事」のさまざまなところで刺激を受け、「仕事」のヒントを学ぶ機会を与えられてきた。逆もまたしかりであり、この「仕事」と「私事」の二つは、筆者においては補完関係にあるように思う。人生において降りかかる問題を解決するためには、まずは問題に正面から向き合い、試行錯誤を重ねることが必要不可欠ではあるが、たまには、まったく違う角度から眺めてみることも有効なのである。このような当たり前のことに気づくきっかけは、「仕事」と「私事」の中のさまざまな場面にちりばめられている。上述のエピソードは、その「気づき」の例の一端として、筆者の勝手な意見を交えながら本稿に紹介した。

最後に、このような執筆の機会を与えていただきました、高分子学会男女共同参画委員会の委員の先生方に、この場を借りて深くお礼申し上げます。